

○「紫波企業の森づくり」 森林環境保全活動

森林を整備し、水源涵養など森林の公益的機能の向上を目的として、平成23年11月、紫波町と「紫波企業の森づくりに関する協定」を締結しました。

本活動は、紫波町における燃料供給態勢確立へ向けての支援事業の一環として、平成24年から令和8年までの15年にわたり実施します。

森林整備を通じ、二酸化炭素吸収、水源涵養、土砂流出防止等のほか、間伐によって搬出された木材は、木質チップとして再資源化することにより地域内のエネルギーとして活用されます。

第12回目となる令和5年度の活動は、令和5年6月17日に新入職員10名他計33名の役職員が参加し、これまでの経緯説明の他、ラ・フランス温泉館の再生可能エネルギー設備の見学、「令和の森」育樹作業とクスギの苗木10本を植樹しました。



○「八幡平松尾鉱山跡地」 森林再生活動

平成20年度より、荒廃裸地化した鉱山跡地を森林に戻そうと八幡平松尾鉱山跡地に「友情の森」と名付け、森林再生活動に取り組んでいます。

これまでに植樹した苗木は1,000本を超え、最初に植樹した苗木は9m超の樹木に成長したものもあり、少しずつ森が形成されています。



○「再生可能エネルギー事業」を通じた地域活性化への支援

再生可能エネルギーを活用した事業を継続的に推進・支援することで、「地産地消方式」の環境ビジネスの確立に取り組んでいます。

自治体等への提案を行い地域内で得たエネルギーを地域内で消費し、エネルギー代として地域外へ流出していた資金を地域内で循環させていくエネルギー版「地産地消方式」を積極的に促進しています。これにより、新たなビジネス・雇用を創造するとともに地域の活性化を目指しています。

なお、紫波中央駅前の再開発（オガールプロジェクト）において、紫波町役場、商業施設、宿泊施設、住宅へ木質バイオマスを利用した地域熱供給事業を行うための、エネルギーステーション建設計画を支援しました。また、森林整備を行い、生じた間伐材は地域の公共温泉施設等でチップボイラーの燃料として使用されます。

